

所属学科：地球圏システム科学科

氏名：西島 拓海

派遣期間：2017/3/26~2017/4/4

派遣先：タイ マヒドール大学

### はじめに

今回のプロジェクトへの参加を希望した目的として、専門とする地学の授業や現地の学生との交流を通して地学分野の関心を深め、日本にはないタイ固有の地質構造から幅広い知識を獲得するためでした。また、英語によるコミュニケーションや異文化を体験することも楽しみにしていました。現地での生活にあたり、お世話になった先生方、現地の生徒のみなさんにこの場をお借りしましてお礼申し上げます。

### スケジュール

- |                                  |
|----------------------------------|
| 3/26 移動(福岡空港→上海浦東国際空港→スワンナプーム空港) |
| 3/27 大学案内・式典・歓迎会                 |
| 3/28 脇田先生プレゼン・授業見学・巡検(化石,露頭)     |
| 3/29 巡検(露頭)・異文化見学(寺,橋)・授業見学      |
| 3/30 異文化見学(線路)・授業(化石)            |
| 3/31 巡検(卒論)・異文化交流(滝)             |
| 4/1 異文化交流(祭り)                    |
| 4/2 異文化体験(象)・プレゼン作成              |
| 4/3 プレゼン発表                       |
| 4/4 移動(スワンナプーム空港→上海浦東国際空港→福岡空港)  |

### マヒドール大学について

マヒドール大学は首都バンコクから 200km 程西のカンチャナブリに位置し、かなりの田舎だった。気温、湿度は日本の夏と多少変わらなかったが、時折スコールがあった。大学は理系の学部が大半で、生徒の男女比は女子の方が多かった。通学にはモーターバイクを使うのが普通で、キャンパス内には、野生の猿や犬が多くいた。



(図 1：左から大学正門・駐輪場・キャンパス内)

## タイでの生活について

現地の先生のご自宅に宿泊させていただき、快適な生活を送ることができた。食事については美味しいものがあったが基本、甘いものか辛くすっぱいものが多くあった。朝食は現地の生徒が準備してくれて、果物(バナナ,マンゴー)が主だった。夕食は現地の先生、生徒とレストランに行くことや先生宅でお互いが地元の料理をふるまい、みんなで食卓を囲み食事を楽しんだ。タイは仏教の国のため寺院によく連れて行ってもらった。また、タイでは観光名所、戦場にかける橋などにも案内していただいた。

## 授業や巡検について

コミュニケーションは基本、英語であり苦戦したが、現地の生徒、先生は親切で分かるように教えてもらい、授業、巡検の内容を理解することができた。授業についてはタイ語もしくは英語で、私が見学した授業では卒論、進論のテーマについて英語でプレゼンし、英語で質疑応答するものであった。そのため生徒は学年が上がるにつれて、英語力が高い。実際に受けた授業は私たちが受けたことのない貝の化石に関するもので、すごく良い経験になった。巡検では見たこともないような石灰岩の露頭やタイ特有の化石を観察した。特に標本室は私の学校のものより大きく、種類も様々で驚いた。



(図2：左から石灰岩露頭・夕食・戦場にかける橋)

## 最後に

10日という短い間であったが、様々な人の協力や現地の生徒や先生のおかげで快適に楽しく生活することができた。コミュニケーションでは苦戦したものの、身振り手振りで伝えようと積極的に頑張り少しずつ英語で話せるようになった。自然と笑顔がこぼれるような楽しい交流ができ、たくさんの思い出ができた。何事も積極的に挑戦するが大事で、様々な経験ができる良い機会に巡り合い、本当によかったと思う。



(図3 集合写真)